

# 図書館だより

平成30年11・12月 合併号

新居浜工業高等学校 図書委員会

今年も残りわずかとなり、年末大掃除の時期となりました。平成最後の年末を皆さんはどのように過ごしますか。さて、先日、今年の世相を表す漢字「災」が発表されました。来年『亥年（いとし）』はみなさんにとって、『災難転じて福となす』佳き年になりますよう、お祈り申し上げます。

さて、冬季休業中はこたつに入って、長編小説読破に挑んでみませんか。まず、ストーブのついた暖かい図書室に是非足を運んで、本を借りて下さい。冬季休業中は5冊まで貸し出し可能です。

## 平成30年度 校内読書感想文コンクール選考結果発表

	受賞者	氏名	書籍名
1	最優秀賞	3年機械科 近藤 君	博士の愛した数式
2	優秀賞	2年環境化学科 高岡 君	桐島、部活やめるってよ
3	優秀賞	3年機械科 伊藤 君	わたしがいだんだ戦い1939年 今年度課題図書

受賞おめでとうございます。

## ★冬季休業中の図書室開館について★

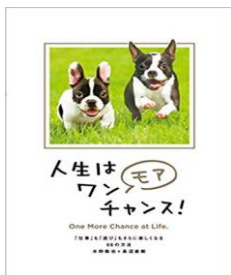
水道工事のため 12月21日（金）のみ開館となります。

## ★読書会について★

3学期に、話題本『君たちはどう生きるか』（吉野源三郎作）の読書会を開催します。内容は、読んだ感想を自由に話し合ったり、自分の好きな本を紹介し合ったりを予定しています。『君たちはどう生きるか』の本は本校図書室には、4冊開架しています。是非とも本を読んで、読書会に参加して下さい。（詳細は後日連絡します）

## ☆君を励ます本の紹介☆

『人生はもっとニャンとかなる』『人生はワンモアチャンス』水野敬也＋長沼直樹 著



なんといっても、犬や猫たちのかわいい写真に癒されます。そして、数々の偉人たちの名言が元気と勇気を与えてくれます。“最高の1+1になろう”“ひとりで行けない境地がある”“発表する機会があるから伸びる”“待ってても、幸せはかかない”“地元を制するやつは、世界を制す”などなど、きっと自分の好きな言葉に出会えるはずです。

## ☆君の心に響く本の紹介☆

★「星の王子さま」の誕生 サン＝テグジュペリとその生涯  
ナタリー・デ・ヴァリエール) 著 山崎庸一郎) 監修 創元社

★「100万回生きたねこ」 佐野洋子) 作・絵 講談社

この絵本は、こどもから大人まで読んで考えさせられる本です。人の幸せは何かを教えてください。最初に読み終えた時、泣いてしまいました。

★「すべては宇宙の采配」 奇跡のりんご農家 木村秋則) 著 東報出版

## 『置かれた場所で咲きなさい』 著者)渡辺 和子 幻冬舎

みなさんに絶対読んで欲しい  
ベストセラー本です

このエッセイ集のタイトルは、渡辺さんが36歳の若さで大学長に任命され、日々苦悩の日々を送っていた時、一人の宣教師から渡された短い英詩より引用されたものです。

“Bloom where God has planted you.(神が植えたところで咲きなさい)。

「咲くということは、仕方がないと諦めるのではなく、周囲の人々も 笑顔にすることなのです」

「置かれたところこそが、今のあなたの居場所です」置かれたところで自分らしく生きていけば、必ず「見守っていてくださる方がある。」という安心感が、波立つ心を鎮めてくれるのです。(本文より)

作者渡辺和子さんの父、渡辺錠太郎は台湾軍司令官や陸軍教育総監でしたが、1936年、青年将校による「2・26事件」で、自宅で殺害されます。その時、机に隠れていた和子さんは父の殺害現場を目撃します。わずか9歳の時でした。当時の心境を語る渡辺さんの肉声をNKKラジオ番組で聞いたことがあります。彼女は「私は父親が年をとって生まれてきましたので、大変父は私をかわいがってくれました。私が生まれてきたことは、父親の最期を見届けるためだったのではないかと思うのです」と語られていました。壮絶な体験を悲観的でなく前向きに捉えて、その後の人生を修道者そして、教育者として歩まれます。彼女は1951年に聖心女子大学を卒業後、アメリカに留学。ノートルダム清心女子大学家政学部の教授となり、翌年に若くして学長になり大変苦労されます。さらに、マザー・テレサが1984年来日時に通訳を務めるなど親交もありました。残念ながら、2016年12月に89歳で亡くなりましたが、2012年に出版されベストセラーとなったこのエッセイ集は、多くの読者に心の安らぎを与え続けています。本は図書館にあります。是非手に取ってみてください。

## 英語科 高木 先生 おすすめの一冊

### 書名 『人生で大切なたったひとつのこと』

著者 ジョージ・ソーンダース

外山滋比古・佐藤由紀)訳

著者のジョージ・ソーンダースは、米タイムズ紙の「世界でもっとも影響力のある百人」のひとりに選ばれた、短編小説の名手であり、ニューヨーク州の名門校、シラキュース大学教養学部の教授でもある。彼は2013年2月の同校卒業式で短いスピーチを行った。卒業式から約三か月後、ニューヨークタイムズ紙のウェブサイトスピーチ原稿が掲載されると、たちまちアクセス数は100万回を超え、世界中で大反響となる。それはなぜなのか。たった8分間用にまとめられたスピーチには、小学生7年時の同級生エレンに対して、もっと親切にできなかった後悔が語られています。筆者は次のように述べています。



私をもっとも後悔しているのは、「やさしさがたりなかった」ということです。

目の前にだれかがいて、そのひとが苦しんでいる。そのときに、わたしはどんなふうに応えたのか……  
まあ、ほどほどに？冷たく？それとも控えめに？(本文より引用)

私も、周りの“助けて”のサインに気が付かないことが多いのかもしれませんが、どうすればもっとやさしい人になれるのか、寛容で、何をも恐れぬ自分を引き出せるのか、この本は優しい言葉で教えてくれます。何度も何度も読み直すことで、自分の足りない点に気付かせてくれる、ページ数はとても少なく、内容は深い本です。